

(様式1)

令和2年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立両国小学校
校長名	平林 久美子

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から (平均正答率は、別表参照)

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・全国平均を下回る項目はない。・全学年を通して著しく状況が良いのは、国語科の書く能力と読む能力、算数科の数学的な考え方である。これは継続した傾向である。・理科の学力が向上している。 <p>【要因として考えられること】</p> <ul style="list-style-type: none">・全校で4つの力「①思いや願いをもつ力、②読み取る力、③自ら表現する力、④関わり合う力」の育成に力を入れてきたこと。・ノート指導や振り返りの充実を図ったこと。・「学力向上6つのチャレンジ」の「⑥ピンポイント学習」に全校で取り組んだこと。・「学力向上6つのチャレンジ」の「④理科実験OJT及び理科室や学校園等の理科学習の環境整備」に取り組んだこと。	<ul style="list-style-type: none">・地図における方位等の理解が不十分であり、資料や地図等を活用する力を高めること。「学力向上6つのチャレンジ」の「③教室や廊下に地図を置いて活用すること」が不十分である。しかし、授業の中で地図帳を活用する場面は明らかに増えている。地図の活用の日常化・習慣化を図りたい。・「主体的・対話的で深い学び」を追究してきた結果、思考力・表現力が伸びた一方で、基礎的・基本的な知識の定着が不十分であるという共通の課題が明らかになった。既習漢字を日常の学習や生活の中で必ず使うようにすることをはじめ、各教科の基礎・基本の知識を授業、ピンポイント学習、家庭学習等で確実に定着するよう全校で取り組む必要がある。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・家で勉強するときは自分で計画を立てている児童が5・6年共に全国平均を上回った。・分からない言葉が出てきたときは、家でも学校でも辞書で調べるといった児童が増えた。 <p>【要因として考えられること】</p> <ul style="list-style-type: none">・新型コロナウイルス感染拡大防止の休校期間中、高学年は家庭学習計画表を作成したこと。・家庭と連携し、「学力向上6つのチャレンジ」の「②辞書をいつでも引けるようにすること」を重点化したこと。	<ul style="list-style-type: none">・テストでまちがえた問題をやり直している児童の割合が学級によって差が大きい。徹底させ、習慣化させることが課題である。「学力向上6つのチャレンジ」の「①必ずテスト直しをすること」を徹底させることが課題である。特定の学級において、テストの誤答の原因を児童自身に分析させたところ成果が出始めているとの報告を受けた。第5・第6学年の全学級において実態に応じて取り組み、児童が自らの学びを振り返ることを習慣化したい。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・学習ノートの質が高い。・児童が、他の教科・領域で学んだことを活かそうとする姿勢が見られるようになった。 <p>【要因として考えられること】</p> <ul style="list-style-type: none">・「学力向上6つのチャレンジ」のうち、「⑤両国小 板書・ノート作りの手引き」の活用を図り、一貫性のある指導ができたこと。・校内研究で、全校でカリキュラム・マネジメントに取り組んだこと。	<ul style="list-style-type: none">・「学力向上6つのチャレンジ」のうち、実践が不十分な項目について、学校全体で更なる充実を図ること。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

平成 30 年度より全校で取り組んだ「学力向上 6 つのチャレンジ」が成果を上げている。今年度も修正を加えながら、「学力向上 6 つのチャレンジ+プラス」として、以下のことに取り組む。

(1) 必ずテスト直しをすること（高学年では自己分析と学習計画も）

全学級で取り組んだはずであるが、「いつもやり直している」という意識の児童は 3 割から 5 割前後に留まっている。「やらなくても済んでいる」状況があり、個人差・学級差が生じている。第 5・第 6 学年においては、直すだけでなく、誤答の原因を分析させ、そのためにどのような学習が必要なのか、主体的に計画を立てられるように指導する。

(2) 辞書をいつでも引けるようにすること

1 年生からすべての教室に辞書を設置し、3 年生以上は机の横に「辞書袋」をぶら下げるなど、家庭にも呼びかけ、辞書に親しむ環境を整えている。高学年の児童の語彙力は極めて高い。意識調査においても、これまでは「家では調べている」が「学校でも家でも調べている」を上回っていたが、今年度は、「学校でも家でも調べている」児童が 1 番多い学級が増えている。しかし、まだ 4 割には満たない状況のため、更に習慣化するよう指導する。

(3) 地図帳をはじめ様々な地図や地球儀等を活用すること

「テレビの横に地図帳」を家庭にも呼びかけ、学校においても地図に親しむコーナーを設置している。校外学習等においても、地図を活用する場を設け、地図を読み、活用できる力を育成してきた。社会科の授業において、地図帳を活用する場面を意識的に増やすようにする。地球儀も身近に置いておきたい。

(4) 理科実験 O J T 及び理科室や学校園等の理科学習の環境整備

平成 30 年度より、「理科実験 O J T の実施」「理科室及び準備室等の環境整備」等、理科学習の充実に力を入れてきた。校内研究においても、理科分科会を設置し、理科の研究授業を重ねてきた。教科部会の理科部、校内研の理科分科会が中心となり、理科教育の充実により一層推進する。

(5) 「両国小 板書・ノート作りの手引き」の活用と加除修正

昨年度 4 月に「両国小 板書・ノート作りの手引き」を学力向上委員会の国語・社会・算数・理科担当が協働で作成し、全教員に配付された。その手引きを活用し、授業改善に活かすことで、全学年の板書やノート指導が充実した。更に、加除修正を加え共通理解を図るようにする。

(6) 「ピンポイント学習」の継続実施

一昨年度の秋より、各学年の苦手分野を朝学習で一斉に取り組む「ピンポイント学習」（月 1 回）を確実に実施したことにより、学力状況調査の結果に結びついた。全学級が同時に「ピンポイント学習」に取り組み、継続することが更なる成果を生み出すことになる。

(7) プラスの部分（4 つの力の育成 & 基礎的・基本的な知識の定着）

- ☆ 校内研究で育成を目指してきた 4 つの力「①思いや願いをもつ力、②読み取る力、③自ら表現する力、④関わり合う力」の育成を継続して目指し、全教科・領域を通して実践する。
- ☆ 基礎的・基本的な知識の定着を重点目標とし、家庭と学校が連携して児童の学びを支える。

3 「令和 3 年度 墨田区学習状況調査」における目標

- ・ D・E 層を C 層に引き上げること。B 層の上位を A 層に引き上げること。
- ・ 意識調査において、「テスト直し」「辞書の活用」の完全定着を 8 割以上に高めること。
- ・ 令和 2 年度の学習状況調査で平均正答率が低かった問題を「ピンポイント学習」で克服すること。